

リサイクル計画書（詳細・積算段階）

様式-1

1. 工事概要

発注機関名	一般財団法人 茨城県環境保全事業団
工事名	(仮称)新産業廃棄物最終処分場 上下水道整備工事(2工区)
施工場所	茨城県日立市諏訪町地内
工事概要等	上下水道整備工事(2工区) L=1503m 上・下水道開削工 L=1286.3m、下水道推進工 L=216.6m、上水道橋梁添架工 L=37.1m、 諏訪梅林増圧ポンプ場 N=1箇所、下水道マンホールポンプ N=2箇所
工期(予定)	契約日の翌日から令和9年3月31日

2. 建設資材利用計画

↓ 工事間利用、ストックヤード利用を含む。

建設資材	①利用量	②現場内利用量	③再生材利用量	④新材利用量	⑤再生資源利用率 (②+③)/①×100	備 考
土 砂	1,338 地山m ³	62 地山m ³	0 地山m ³	1,276 地山m ³	4.6 %	
砕 石	1,190 トン	0 トン	649 トン	541 トン	54.5 %	
アスファルト混合物	1,487 トン	0 トン	1,487 トン	0 トン	100 %	
他産業からの再生材	トン	トン	トン	トン	%	
	トン	トン	トン	トン	%	

3. 建設副産物搬出計画

↓ 建設発生土の場合、他工事、ストックヤードへの搬出分が該当

指定副産物の種類	⑥発生量	⑦現場内利用量 (減量化量)	⑧他工事への 搬出量	⑨再資源化施設 への搬出量	⑩最終処分量	⑪現場内利用率 (⑦/⑥×100)	⑫有効利用率 (⑦+⑧+⑨)/⑥×100	
建設発生土								
第1種 建設発生土	地山m ³	地山m ³	地山m ³		地山m ³	%	%	
第2種 建設発生土	3,042 地山m ³	105 地山m ³	2,937 地山m ³		0 地山m ³	3.5 %	100 %	
第3種 建設発生土	地山m ³	地山m ³	地山m ³		地山m ³	%	%	
第4種 建設発生土	地山m ³	地山m ³	地山m ³		地山m ³	%	%	
泥土(浚渫土)	地山m ³	地山m ³	地山m ³		地山m ³	%	%	
合計	地山m ³	地山m ³	地山m ³		地山m ³	%	%	
コンクリート塊	1 トン	0 トン	0 トン	1 トン	0 トン	0 %	100 %	
アスファルト・コンクリート塊	1,388 トン	0 トン	0 トン	1388.1 トン	0 トン	0 %	100 %	
建設発生木材	トン	トン	トン	トン	トン	%	%	
建設汚泥	87 トン	0 トン	0 トン	86.8 トン	0 トン	0 %	100 %	

※建設発生土の区分(既存資料から判断するものとする)

①第1種建設発生土…砂、礫及びこれらに準ずるもの。

②第2種建設発生土…砂質土、礫質土及びこれらに準ずるもの。

③第3種建設発生土…通常の施工性が確保される粘性土及びこれらに準ずるもの。

※建設発生木材の中には、伐開除根材及び剪定材を含む。

※利用量等は、現時点で算出可能なものを記載する。

④第4種建設発生土…粘性土及びこれらに準ずるもの。(第3種建設発生土を除く)

⑤泥土(浚渫土)のうち概ねqc2以下のもの。

<参考> 重量換算係数 (トン/m³)

項目	荷積み状態での換算値		実体積による換算値 参考値(トン/m ³)
	建廃ガイドライン値(注1)	参考値(トン/m ³)	
建設汚泥	1.2~1.6	1.4	1.4
コンクリート塊	(建設廃材)	1.8※注2	2.35(無筋)
アスファルト塊	1.6~1.8	1.8※注2	2.35
建設発生木材	0.4~0.7	0.5	
金属くず	1.4~2.0	1.5	

注1:建廃ガイドライン値:「建設廃棄物処理ガイドライン」厚生省生活衛生局
水環境部産業廃棄物対策室監修)による値

項目	荷積み状態での換算値		
	建廃ガイドライン値(注1)	参考値(トン/m ³)	
廃プラスチック	0.1~0.3	0.2	
建設混合 廃棄物	新築 木造解体	— —	0.31※注3 0.816
アスベスト	—	0.25	
砕石	—	—	2.0 ※注4

注3:建設混合廃棄物の新築は(社)建築業協会の調査結果(H2.9.30)、木造解体は「関東木造
建設解体業連絡協議会」の調査結果(H3.3.4)による。

注2 :これは運搬時における空隙を多く含む状態での標準的な換算値である。

注4 :盛土状態での換算値。[「道路橋示方書・同解説」(社)日本道路協会]等による値。